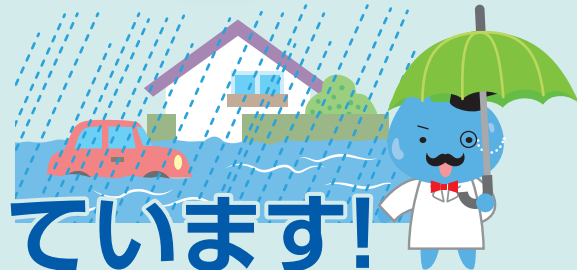


みんなの水

Vol.85 2017年 2月15日 発行

- 下水道事業受益者負担金の申告書提出のお願い
- 水道の使用中止・使用開始の手続きはお早めに!
- 「第45回 水とわたしたち展」の作品募集
- ホームページへの広告募集
- 「上下水道モニター」・「上下水道事業経営懇談会委員」募集

中心市街地の浸水対策事業を行っています!



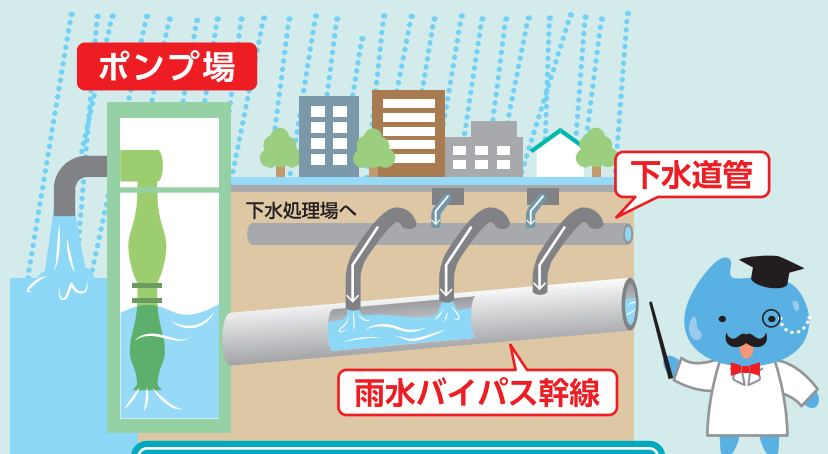
本市では、平成16年に、台風23号の影響による大雨で、中心市街地の浸水被害に見舞われました。これを受け、大雨に強いまちづくりを推進するため、平成18年に「中心市街地浸水対策計画」を策定し、東部地区の雨水バイパス幹線の整備や、福岡ポンプ場の増設等を進めてきました。

今後は、中心市街地西部の紫雲、宮脇地区の浸水対策として、西部バイパス幹線と日新ポンプ場の整備を進め、おおむね10年での整備完了を目指します。



どうして浸水被害が発生するの?

都市化が進むにつれ、田畑が減少し、地表面の多くがアスファルトで舗装されたことで、雨水が地面に浸透しにくく、大部分が下水道管に流れ込むようになりました。このため、下水道管の流下能力やポンプ場の排水能力を超える大量の雨が降ると、雨水が地表にあふれることとなります。



浸水被害を防ぐために

大量の雨に対応するため、雨水を流す下水道管の流下能力を増やし、排水するためのポンプ場の能力を強化する必要がありました。

そこで、寿・北浜地区、築地地区、松島・花園地区などの東部地区浸水対策として、雨水バイパス幹線を整備しました。既設の下水道管と接続し、福岡ポンプ場へ雨水を導水するためのもので、全体で約33,000m³の貯留量を有しています。また、導水される大量の雨水を速やかに排出するため、福岡ポンプ場の排水能力を、従来の約9m³/秒から約20m³/秒まで向上させる増設工事を行っています。

